

黒大豆のエダマメ栽培における増収技術

～開花期前後のかん水と生育初期の摘芯の効果～

1. はじめに

近年、県内山間部（紀の川市鞆渕地区）では煮豆用黒大豆の産地形成が進む一方で、早くから販売できるエダマメ出荷が増えている。しかし、黒大豆は粒の大きさを重視して選抜を繰り返したため一粒莢が多く、産地ではエダマメとして市場性の高い二粒莢を増やす栽培技術が望まれている。

ここでは、開花期のかん水および生育初期の摘芯処理が黒大豆の生育やエダマメ収量・品質に及ぼす影響について検討した。

2. 試験方法

試験場内露地ほ場において「丹波黒大粒大豆（タキイ種苗）」を供試し、①無処理区、②かん水区（かん水のみ実施）、③かん水摘芯区（かん水と摘芯を実施）の3区を設け、各処理区の開花期、収穫期、生育量とエダマメの収量・品質を調査した。

黒大豆は、播種2010年6月30日、畝幅100cm、株間45cmの一条植えで栽培し、かん水処理は開花期前後に3～5日間降雨が無ければ畝間かん水を行い、摘芯処理は定植活着後に本葉5葉で摘芯した。

3. 試験結果

1) 開花期のかん水による増収効果

かん水区の分枝数や茎径は、無処理区と比べて差が無く、茎長が長くなった（表1）。また、かん水区の収量は、無処理区より約25%増収し、二粒莢の割合も約5%増加した（図1）。

2) 摘芯による増収効果

かん水摘芯区に分枝数や茎径は、かん水区と比べて差が無く、茎長が短くなった（表1）。また、かん水摘芯区の収量は、二粒莢割合がかん水区と同程度で増収傾向がみられた（図1）。

表1 開花期のかん水および摘芯処理がエダマメの生育に及ぼす影響

処理区	茎長 (cm)	分枝数 (本)	茎径 (mm)
無処理	86.7	6.6	21.0
かん水	90.4	6.8	20.8
かん水摘芯	86.7	6.9	21.0

注) 数値は1区10株の3区平均
調査日: 2010年10月18日

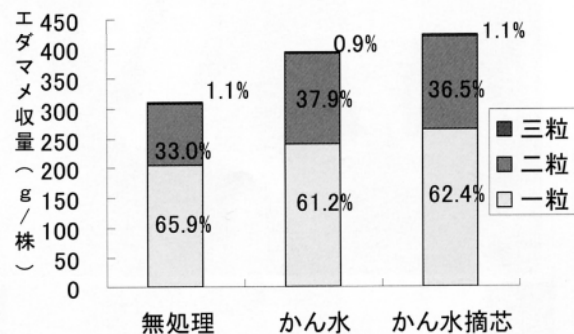


図1 開花期のかん水および摘芯処理がエダマメの収量に及ぼす影響

注) 数値は、1区10株の3区平均
調査日: 2010年10月18日
%値は各要素の構成割合

なお、本試験における開花期は8月10日～8月27日（盛期：8月16日頃）、収穫期は10月14日～10月28日で、各処理区間に差はみられなかった。

4. おわりに

本研究から、黒大豆のエダマメ栽培において、開花期のかん水による増収・二粒莢増加効果が明らかとなり、5葉期の摘芯処理による増収傾向もみられた。また、摘芯処理により草丈の伸長が抑制されることから倒伏防止対策としても有効であると考えられた。

（栽培部 東卓弥）